



語らい 山の手倶楽部 中谷敏清氏

出会い、ふれあい、助け合い — 福祉

出会い、ふれあい、助け合い

福祉



子どもやお年寄り、障害のある人が安心して暮らすことができる地域は、すべての人にとって住みやすいと感じられる地域です。

「おはよう」のあいさつに始まって、あちこちから話し声が聞こえてくる地域はとても活気があります。

そのような地域をつくろうと、みんなで支え合い、協力しながら地域づくりがはじまって20年になります。これまで積み重ねてきた住民活動に加え、新しいかたちの助け合い活動をすすめながら、住みなれた地域で孤立することなく、自立した生活をしたいと思えます。

主な事業

人の輝く福祉のまちづくり

社会福祉協議会 目的と理念

社会福祉協議会は社会福祉法に規定され、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体です。市・区・学区の3層に組織され、住民主体を原則として、誰もが地域の中で安心して暮らすことのできる、人が輝く福祉のまちづくりを推進することを理念として活動しています。

桂坂社会福祉協議会

桂坂社会福祉協議会は「学区社協」として、1991（平成3）年に発足し、社会福祉の実現を目指し、住民主体の地域福祉活動をすすめ、福祉社会の実現を目指し、地域における福祉サービスを展開しています。住みなれたまちで安心して暮らすことができるように、ボランティア活動も積極的に行っています。高齢者や障害のある方が地域でより住みやすくなるように、福祉サービスの利用相談や日常生活での相談、福祉施設とのネットワーク活動を行っているほか、「花の輪の会」や「朗読サークル」などのサークル活動も活発です。

介護予防・健康づくりの一環として、桂坂在住の高齢者世帯の方や地域の行事などに身体的理由で参加困難な方々を対象にした「すこやかサロン」を月2回開催しています。友達づくりをしながら楽しいひと時をすごしていただくという工夫をする一方、多くの方に参加してもらうために、年に数回発行の学区の広報誌『桂坂福祉だより』に様子などを掲載して呼びかけています。地域に住む障害のある子どもたちとの交流、保護者の情報交換も兼ねた「親子のふれあい」をはかるバスツアーにも年1回出かけています。



また、寝たきりの方や、高齢者で一人暮らし、高齢者世帯の方々の毎日使っているふとん類を丸洗いして乾燥し、その日の内にお届けする「ふとんクリーニングサービス」を、費用は無料で行っています。秋には、70歳以上を対象とした「高齢者会食

会」、ボランティア講習会や介護教室なども実施しています。

桂坂に住む人が生きがいのある、明るい日常生活をおくることができるよう、地域の福祉ニーズに基づいた、地域における地道な福祉活動に「桂坂社協」として取り組んでいます。



賛助会員と共同募金

西京社会福祉協議会は、地域の社会福祉事業の推進や、民間社会福祉施設の設備充実などを図るために「賛助会員」として募金を集めています。その一部が「桂坂社協」に還元され、桂坂の運営と活動に役立っています。

わたしたちの、一人でも多くのものがこの趣旨を理解し、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりに協力したいと思います。

また、皆さんから寄せられた「赤い羽根」共同募金も、地域の社会福祉事業の推進と民間の社会福祉施設の整備・充実など数々の事業の進展に寄与するために還元され、桂坂においても福祉事業に活かされています。

福祉に関する相談

桂坂には、福祉の仕事を担当している方がおられます。民生児童委員・主任児童委員・老人福祉員の方々です。在宅介護や福祉施設など社会福祉に関するいろいろなご相談を気軽にしてください。

相談内容については、守秘義務があり、他に口外されることはありません。



温もりのある地域づくり

桂坂地域女性会

1994（平成6）年に「桂坂女性会」が発足し、女性団体としての活動を始めました。地域での活動から2年後の1996（平成8）年4月に「桂坂地域女性会」となりました。

京都市、西京区、桂坂学区といった組織になっていて、桂坂地域女性会も京都市地域女性連合会に加入しています。

また、桂坂学区自治連合会の各種団体でもあり、京都市教育委員会の社会教育課の指導のもとで活動する社会教育関係団体でもあります。

桂坂地域女性会は、温もりのある地域づくりを目標に、会員相互の親睦を大切にし、男女共同参画を目指して、共に学習し、楽しみ、実践をとおして、女性としての能力を充分発揮しながら活動をする場です。



主な活動

毎年恒例となっている「作品展と手作りバザー」や施設の見学会、講習会、ハイキング、コンサートなど女性会としての行事のほかに、「西京ふれあいまつり」に参加し、桂坂学区の自主防災訓練では給食給水部で豚汁を、また区民運動会では模擬店を出店しています。

生涯学習も大切な事業のひとつです。「市民スクール21」として、毎年地域の方たちにも呼びかけ、水問題や環境問題、子育て支援などテーマを決めて数回開催しています。

他の各種団体とも協力して、「桂坂ほっとラインの会」や「桂坂子育て応援サロン」など、地域に根ざした活動も積極的に取り組んでいます。やさしい、

住みよい地域づくりには欠かすことのできない活動です。

茶道、書道、絵画、フラダンス、民踊、街探訪など会員相互の親睦と趣味の楽しさを味わうサークル活動も活発で、学区で開催する作品展やサークル発表会、地域での行事に出品、出演もしています。学区創立20周年には、桂坂山の手倶楽部と合同の文化展も開催しました。指導者にめぐまれ、和気あいあいでも楽しい時間を共有しています。

地球温暖化防止と資源を大切にすることからはじめた廃食用油の回収は、環境問題を考える上で意識改革に大きくつながりました。現在は地域全体の取り組みとなりました。



さまざまな人とのかかわりを大切に、組織活動をとおして、すべての人が住みやすいと感じられる、温もりのある地域づくりをしています。

心の繋がりを求めて

桂坂ほっとラインの会

桂坂に住む人たちが、これからも安心して幸せな生活を続けていけるように、お互いに助け合い、温かい心の繋がりを（福祉の輪）を広げていくことが地域で望まれています。

また、街づくりが始まって20年もの年月が経過し、在住者の中には、高齢のために日常生活に不便を感じはじめておられる方もあります。

そういうなかで、社会福祉協議会が中心となり、自治連合会、民生児童委員協議会、老人福祉員、山の手倶楽部、地域女性会、更生保護女性会が一緒になって会則の検討など発足にむけての準備をしました。

一つの組織として運営委員会を発足し、2008（平

成20）年6月「桂坂ほっとラインの会」を立ち上げて地域の方々にお知らせしました。

「桂坂ほっとラインの会」のメンバー（ボランティア）は、会の趣旨に賛同し、少しの時間お手伝いをしていただける、桂坂学区在住の方たちで構成されています。

目的と利用者の対象

「ひとりではできない、ちょっと手を貸してもらえたら」と困っておられるお年寄りの方たちの手助けをすることを目的としています。具体的には、概ね70歳以上の独居、あるいは高齢者所帯で手助けを必要とされる方たちを対象に、電球の取り替え、家具の移動や簡単な修理、屋外の軽作業、それに住まい近辺の手助け（買い物）などを行います。作業時間は2時間以内とかぎられ、修繕にかかる材料費は依頼主の負担ですが、作業に対する報酬はありません。

手助けを依頼する場合は電話で窓口申し込んでいただくことになります。

この制度をはじめてからあまり時は経過していませんが、少しずつ利用は増えてきています。桂坂が住み心地のよい地域となるように、地域ぐるみでの取り組みにしたいものです。

洛西ふれあいの里

福祉ゾーン



桂坂には、京都市によって計画された総合的福祉ゾーンがあります。1986（昭和61）年に西養護学校（現西総合支援学校）が開校し、つづいて1987（昭和62）年に特別養護老人ホーム沓掛寮、1989（平成元）年に障害者施設である、授産園・更生園・療護園が開設されました。そして、1994（平成6）年には、洛西ふれあいの里保養研修センター（ふれあい会館）が開設されました。

これだけの施設が一ヶ所に集まっている地域はめずらしく、地域の住民と共に、現在はいろいろな行事を通じて交流をし、お互いに理解をしながら「福祉のまち」を形成しています。

授産園

施設の目的

知的障害をもつ人を対象とした授産施設で、いろいろな作業を通して、喜びと生きがいを持って社会的に自立することを目的としています。京都市が1989（平成元）年に設置し、社会福祉法人京都総合福祉協会（旧京都障害児福祉協会）が運営する公設民営の施設です。

当初は、西養護学校（現西総合支援学校）の卒業生が通所できる施設として、障害のある人が生き生きと働ける場所として開設されました。20年が経ち、今や桂坂の地域に根ざした施設になっています。18歳以上を対象に、定員は60名で、設立当初からの方は50代後半になっておられます。月曜日から金曜日まで、毎日授産園のマイクロバスか市バスを交通手段として通っています。



作業

陶芸、クリーニング、箱折りの作業があり、陶芸品は「生産展」やホットハートセンター（京都駅ビル）、「陶器まつり」などで販売されています。陶芸教室もあり、夏休みには子ども対象の教室も開催しています。クリーニングでは、ふれあいの里施設利用者が使用するシーツや衣服類、ホテルのタオルなど企業からの受注があります。

施設の体制

授産園は「旧障害者福祉法」に基づき運営されて

いますが、2006（平成18）年に施行された「障害者自立支援法」により今後は、授産の施設体系が就労体系に変わり、企業に就労するための就労支援を得る多機能を持った施設になります。新しい法律に対応した運営をどのようにしていくかは現在模索中とのことです。

地域とのかかわり

地域で暮らしていけるようにマンションを借りたいわゆる「グループホーム」や「ケアホーム」に、担当する職員と共に宿泊し、実生活の体験も行われています。

「風通しのよい施設」を目指して、陶芸教室などを地元の人に使っていただくこと、ボランティアを受け入れること、仕事のアイデアをいただくこと、何か一緒にできることはないかななどを考えて外部にPRする必要があります。

洛西ラクセースで開催の「生産展」や桂坂での「ふれあいの里秋祭り」などでは陶芸品の販売を通じて地域の方々との交流を図っています。

イベントを通して地域とのかかわりを図っていくにしても、まだまだそのかかわりは少なく、住民としても交流する機会を増やしていくことが必要だと思われています。

更生園

施設

日常生活に支援を必要とする知的障害者が生活する施設で、1992（平成4）年に開設されました。定員は60名です。現在、入所者の平均年齢は35歳で、職員、支援者、ボランティアが協力して、生き甲斐のある生活を送ることができるよう、24時間体制で支援しています。



普通の暮らしを求めて

健康を一番に重視しながら、普通の暮らしができるように、「暮らしの場」「日中の活動の場」「余暇の場」と事業を3つに分けて考えられています。

「暮らしの場」としては居心地のよい、生活をする居室、「日中の活動の場」としては、施設の中で生活が完結してしまわないよう、職住分離を基本として農地を借り受けています。ホップ農園での農作業でさつまいもや玉ねぎを作ったり、箱折りや紙すきの仕事をします。

「余暇の場」としては、サークル活動やレクリエーション、お買い物などボランティアや職員の方に支援されての外出です。

一人ひとり障害の程度にあった1日のプログラムを作成し、作業内容なども工夫されています。

地域での生活

更生園で生活している方が普通の生活を体験するために桂坂にあるマンションを「グループホーム」として借りています。男性5名、女性4名の園生が夕方施設からマンションに帰り、夕食の用意をして、そこに宿泊します。地域で暮らせるようになるための支援をうけながらの体験です。メンバーは交代制になっていますが、ずっと交替しないで固定している人もいます。

医療面については、「施設の中では充実していますが、『障害者自立支援法』が施行されてから、いろいろ難しいところがあります」と施設長さんのお話でした。

ボランティアとして

楽しい場をつくるにはいろいろな楽しみ方があることに留意しなければなりません。器用な方も多く、ものづくりなど目標を持って一緒に作業することは生き甲斐のある生活につながります。しかし、コミュニケーションをとることは、簡単ではありません。支援する者が楽しいと思うこと、これが障害をもつ人たちにも楽しく感じられるはずです。外の風を入れることで元気になり、共同で作業する回数を重ねることで顔見知りになることができます。月一度縫い物のボランティアをしている地域の方もおられます。こうしたことは、地域に住む私たちにできることではないでしょうか。障害をもつ人たちに何かをしてあげたいと思うのではなく、心のバリアフリーが大切で、一緒に何かをすることが必要なことだと思います。

ボランティア講習会も考えているとのこと。

療護園

施設

日常生活に介護を必要とする重度の身体障害者が入所して、機能を維持し、機能の低下を防ぐために機能訓練をうけながら生活をする施設です。1989（平成元）年に事業が開始されました。入所者は50名です。

廊下は広く明るく陽が降り注ぎ、とても開放的で、生活をしている人の生活スタイルや時間に合わせていろいろな工夫が凝らされています。



リハビリ【機能訓練】

職員の皆さんは、一人ひとりの人格を尊重し、リハビリテーションを受けながら、少しでも社会生活になじめるように、プログラムにそって一所懸命支援されています。運動機能の向上・維持をすることは、快適に生活していく上で大切です。

園での生活

開かれた施設をめざし、利用者個人の外出も自由に行われています。

園の生活を楽しく、充実したものにするために習字、カラオケ、押し花などのサークル活動や卓球バレーなどのスポーツも行われ、交流試合もあるそうです。

日中活動や買い物外出、余暇活動などには地域のボランティアの方も受け入れ、洛西ふれあいの里秋祭りなどの行事にもお手伝いをお願いしています。

当初から入所の方も高齢化し、健康管理は、園内にある診療所の医師、職員が昼夜を問わず注意をはらって行われています。

一方、新しい法律の導入に加え、職員やボランティアの人材が集まりにくいという厳しい面もあり

ます。「施設から地域で生活を共にする」という方向に支援の方法も変わっていくそうです。

デイサービスセンター

在宅の重度身体障害者、心身障害者が、日常生活をするための機能訓練やクッキー作りなどの軽作業、創作活動を通して意欲を高め、社会参加を促進していくための施設です。定員は20名ですが、現在26名の方が登録されており、月曜日から金曜日まで個々人のプログラムにそって活動しています。療護園での生活者もグループ活動を希望される方はデイサービスセンターに通所することができます。

桂坂地域に設立されて長い月日が経ちます。療護園を生活の場としておられる方々と、地域に居住しているものがお互いに認め合い、共存できる良い関係を保っていかれたらと思います。障害をもつ人が、地域で自立して生活していくためには、まわりのちょっとした親切がとても大切です。人にやさしい「福祉の街」でありたいものです。

総合老人福祉施設 沓掛寮

寮の開設

桂坂地域における「福祉の街」建設計画に基づき、社会福祉法人・洛西福祉会が母体となって1987（昭和62）年4月に「特別養護老人ホーム沓掛寮」が50床で開設されました。その後、1992（平成4）年に85床に増設、ショートステイは4床から8床に増設されました。



いかなる時も生活者の意志、人格を尊重し、施設は生活と潤いの場となっています。明るく、家庭的

な雰囲気、地域や家庭との結びつきを重視しながら、「くつかけ家族」のために一所懸命介護・支援をされています。

寮生活を送る人たちは、静かな環境の中で、あたりまえの普通の生活を味わいながら、地域や家族の方がたとのふれあいを大切にしています。生活意欲をなくす状況に陥らないように、季節に応じて、お花見、新緑ドライブ、七夕まつり、納涼大会、ひなまつりなどの行事があり、楽しく充実した日々を過ごしています。

デイサービスセンター〔通所介護〕

1991（平成3）年に開設され、2002（平成14）年に、定員が15名から32名に拡大されました。概ね65歳以上の身体的に障害のある、日常生活がちょっと困難な、介護認定を受けたお年寄りが通っておられます。デイサービスセンターは、必要な訓練や、入浴サービスで心身の機能向上を図ると共に、交流をとおして、家にいる孤独感から生きる喜びを感じることができる所でもあります。1週間に数回通われているお年寄りもおられるそうです。

新しい制度

2000（平成12）年、介護保険制度の実施に伴い、福祉サービスが「措置」から「契約」に変更され、2006（平成18）年には、「在宅介護支援センター」が「居宅介護支援事業所」と「沓掛地域包括支援センター」の二つの事業に分化されました。

居宅介護支援事業所 沓掛寮

〔旧 京都市在宅介護支援センター〕

京都市から委託された高齢者の相談機関です。高齢者の在宅生活に必要な福祉サービス、制度の紹介やお年寄り・障害者の方が「介護保険」で何らかのサービスを受けたい時に必要な手続きを代行したり、介護サービス計画などの相談にのります。

高齢者の介護・生活について総合的に関わります。

京都市沓掛地域包括支援センター

〔桂坂、大枝、新林、福西管轄〕

2006（平成18）年4月に開設されました。京都市

と委託契約で、京都市内には61ヶ所あります。

地域包括支援センターには保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員の専門職員がいます。

介護予防、要支援1および2、高齢者の人すべてが対象で、施設医療も含めた生活全般について支援し、相談にも応じています。老人福祉施設への入所、適切な介護予防サービスを受けるためのケアマネジメント、高齢者の自立した生活の支援など何でも相談すればアドバイスがいただけます。私たち地域に住む者にとっては心強い協力者だといえます。

このように、高齢化が進むと思われる桂坂地域に居住する者にとって、相談できる拠点がたくさんあることは、本当にありがたく嬉しいことです。地域に共に生き、助け合い、人のために役に立つ「福祉の街」でありたいと思います。

ふれあい会館

[ふれあいの里保養研修センター]



ふれあい会館は1994（平成6）年に開設され、15年を迎えました。京都市社会福祉協議会が運営する、市民のための保養宿泊施設と福祉の研修施設を兼ね備えています。館内はバリア・フリー化され、すべての人がふれあい、学び、楽しみ、心豊かな時間を過せることを目標に考えられています。AED（自動体外式除細動器）や災害時に飲料を無料で提供できる「災害救援ベンダー」と呼ばれる自動販売機も設置されています。

研修施設

福祉に従事する人の研修としては、基礎研修をはじめ、専門性をみかく専門課題別研修、地域福祉の人材の研修、京都市介護実習の研修事業があり、介護については基礎から応用までいろいろな介護講座が開講されています。介護展示室では介護用具が常

時展示してあり見学することができます。会議や団体の研修などに研修室も貸しています。

健康増進

健康増進室では高齢者のための運動器具もあり、体力測定、骨密度測定、運動教室など専門のインストラクターによるトレーニングを受けることができます。もちろん、健康づくりのための講座も開講されています。



教養講座

陶芸、書道、水墨画などの教養講座や特別企画講座が生涯教育として開催されています。地域からの利用者も多く、趣味をいかしての仲間づくり、生きがいの場として活用されています。

宿泊・保養施設

宿泊施設はバリア・フリーになっており、車いすの利用者でも安心して泊まれる電動ベッド、段差のない浴室もあり、トイレの完備された洋室を含め14部屋あります。高齢者、障害のある人には割引制度があり、館内には喫茶、食事のできるレストランもあります。いろいろな心配りがとても嬉しい施設です。



桂坂野鳥遊園

1991（平成3）年に桂坂野鳥園として開園されました。2000（平成12）年7月には児童厚生施設の認可を得て「桂坂野鳥遊園」と名称を改め、京都市社会福祉協議会が運営管理しています。



桂坂の山裾の素晴らしい自然環境に恵まれ、これまでに約80種類の野鳥が飛来生息することが確認されています。8300坪の広大な敷地内には観鳥楼があり野鳥が観察できます。四季折々に楽しめる草木もあり、「鳥と遊ぶ道」と名付けられた裏山散策道があります。唐櫃越の道の一部、尾根づたいに歩く時は、京都市内、洛西ニュータウンを遠望できるスポットが何箇所かあります。ホタルが生息し、毎年6月にはホタル観賞会が催されます。



2001（平成13）年11月には、野鳥遊園の自然環境を大切に、更に充実させていこうとの趣旨で、「桂坂野鳥遊園を育てる推進会」が設立されました。

「ものづくり体験館」が2005（平成17）年にでき、自然とともに情操を育む、次代を担う子どもたちの健全育成を支援しています。『西京ウォーキングマップ』では一つの拠点としても注目されています。

西総合支援学校

校名の変更

1986（昭和61）年4月京都市立西養護学校として、洛西福祉ゾーンで一番早く開設されました。

2004（平成16）年に養護学校の再編で西総合養護学校と校名が変わりました。そして、2007（平成19）年には京都市を4つのゾーンに分けて、肢体不自由の子どもも住んでいる地域に通学ができるようになり、西総合支援学校と校名が変わりました。

生徒数は、小学部が68名、中学部46名、高等部66名で、教員は126名です。現在は、小学校の育成学級に在籍する子どもも支援しています。



発達遅滞児童生徒および肢体不自由児童生徒に対して、小学校、中学校および高等学校に準ずる教育を行い、日常生活、職業生活に必要な知識、技能、態度を養うとともに、たくましく、心豊かな人間として成長するための教育が行われています。スクールバスでの通学ですが、自主通学の生徒もいます。通学区域は西京区、右京区、南区です。

教育方針

児童生徒が社会参加し、自立するための包括的な教育を推進することを目標に、一人ひとりの児童や生徒の意欲や主体性を大切に、12年間の指導の一貫性のもと、本人・保護者の願いと発達や障害に即した個別の包括プランを作成し、きめ細かい教育が行われています。小学部ではのびのび遊び、中学部では学校・家庭・地域のかかわりの中で自ら選び、自ら学習して生活する力を身につけ、高等部では社会の一員として自ら学び自ら行動し、いろいろな経験を通して役割を担い、自分らしい生活をめざしま

す。

教職員一人ひとりが地域ぐるみで、保護者と連携のもと障害のある子どもへの指導を心から考えておられます。高等部の卒業時にはその成長ぶりに驚かされます。

地域とのコミュニティ

2005（平成17）年、「コミュニティスクール推進事業指定」を日本ではじめて受け、学校運営協議会ができました。

校庭の芝生化が「NPO芝生スクール」によって実現し、2006（平成18）年11月には、「ふれ合い、支え合い、市民ぐるみ・地域ぐるみの学校づくり」をテーマに「コミュニティフォーラム2006」が開催されました。個別の包括プランに基づく子どもの地域の生活を見据えた教育がされるようになりました。

児童、生徒は、学校のある地域としての桂坂、そして自分たちが住む居住地域と2つの地域を持っています。

学校の中だけ、家の中だけでは自立にはつながりません。外へ出ていくこと、地域に入ることで、学校で培った力を発揮することができます。

桂坂地域では、中学部の生徒がマンションを訪問して、ペットボトルのリサイクル活動をしています。「自分の力が発揮できて、知らない人からほめられるとやる気が出てきます。知らない人の中に入っていくには時間がかかりますが、地域の方々の協力がとても大きいです」と先生方はおっしゃっています。

その他、桂坂のお店に設置してある自動販売機のジュースの入れ替えのお手伝いや、桂坂児童館で集まったペットボトルを「カナートイズミヤ」に持っていくお手伝いなどを中学部、高等部の生徒が、沓掛寮には中学部の生徒が演奏に行き喜んでもらっています。桂坂小学校との交流もあり、「桂坂ホットラインの会」にも協力してくれるそうです。



ちょっとした支援があることで、子どもたちは自分の力を発揮することができます。福祉の街づくりの一環として地域ぐるみで意識を高め、子どもたちが健やかに育ってくれるように協力したいと思います。

地域でのふれあい

福祉施設の諸行事

桂坂では1年を通じて、それぞれの施設の利用者さんとのふれあい、交流があります。

洛西ラクセーナでの生産展
ふれあいの里秋まつり
ふれあい会館創業祭「ふれあいフェスタ」
沓掛寮夏まつり
わいわい広場 等

諸行事は職員の方々は勿論ですが、多くのボランティアの人々に支えられています。

施設の紹介、各施設での自主作品の販売コーナー、フリーマーケット、いろいろな団体による模擬店、保護者会によるバザー、体験コーナー、ステージ発表など盛りだくさんに開催されることもあります。

桂坂の他に、各地から訪れる人々との交流も見逃せません。理解し合い、ふれあい、とてもいい雰囲気会場は盛り上がっています。

